



町内に設置されるLED防犯灯

防犯灯設置工事は、来年度は県補助金や地域振興基金も活用し、対象基数を二百五十基と大幅に増やし整備します。

さらに平成二十四年度には、県消防操法大会の奥出雲町開催が決定しています。今年のうち会場となる横田運動公園の整地を進め、消防団と連携し、万全の準備を進めます。

防災対策 消防設備の整備については、今年度の鳥上分団に続き、来年度は、阿井分団へ最新鋭の消防ポンプ車を配置します。また、今年の県消防操法大会は、浜田市で開催される予定であり、八川分団が「ポンプ車の部」、布勢分団が「小型ポンプの部」に出場することとなっています。

イノシシの駆除頭数は、過去最高であった平成二十年度を大きく上回っています。このため、国の交付金を活用し、狩猟免許取得のための事前講習会開催や金網設置などの被害防止対策、有害鳥獣駆除などの対策を講じます。

第三セクター

第三セクターは、地域産業の育成と雇用の確保に大いに貢献しており、町としては、第三セクター等改革プランに基づき支援を行います。

舞茸生産については、奥出雲椎茸のブランドも追い風となり、経営状況も改善されてきたため、本町の特産品として舞茸のブランド化を一層推進し、更なる雇用の拡大を図るため、坂根の舞茸直売所を整備し、今年四月から独立し

行政組織機構・職員

引き続き業務量や事務事業の見直しも含め、不断の行政改革に取り組みます。

また、横浜市との人事交流は終わりますが、内閣府への職員派遣を引き続き行うほか新たに総務省との人事交流、島根県及び県建設技術センターへ職員を派遣するなど、引き続き、職員の資質向上を図ります。

広域行政・広域連携

来年度、雲南広域連合と消防組合及び環境衛生組合の三組織を統合することとなりました。

活力ある奥出雲を

人口減少や地域経済など厳しい状況が続いており、元気があふれる「笑顔と語り、元気あふれる町づくり」をスローガンに引き続き町民の皆様の声をお聞きしながら、現場をこの目で見て、必要な施策には重点的に予算配分するなどし、対応していきます。

今後、奥出雲町の一体感を更に強固なものにすることを最優先課題とし、誠心誠意全力を尽くして町政運営に取り組んで参ります。



坂根の舞茸直売所

た会社として運営することとしました。

商工業振興

商工会に対し経営改善普及事業等の財政支援を行うとともに、飲食店・商店への改修改造の費用の一部を助成する町独自の商業活性化重点支援事業をこれまでと同様に実施します。

また、地域振興巡回員を配置し、横田高校生や他地域の商工業者との交流促進事業など、奥出雲ブランドの向上のための活動を行います。

学校教育の充実

学校教育については、学校・家庭・地域との連携を強め、故郷を愛し、自ら考え主体的に行動できる、心身ともにたくましい人づくりを重点目標とし、町としての一体感を大切にし、各小学校や地域の特徴を活かし、充実した教育の推進に努めます。

文化芸術の振興

各種文化教室の開催、芸術文化団体の育成支援や演劇などの芸術鑑賞機会の提供を図ります。

和泉一朗副町長が退任



退任のご挨拶

この度、三月末日をもって奥出雲町の副町長を退任いたしました。

合併直後の奥出雲町に於いて、行政経験のない全くの素人を寛容に受け止め、支えていただきました。皆様は、改めて心よりお礼を申し上げます。

また、岩田前町長、井上町長とお仕えした二人の町長に於かれましては、それぞれ識見高く卓越した行動力をお持ちの、まさに奥出雲町にふさわしいリーダーであり、そばでその手腕を目の当たりに出来ただけでも光栄なことでした。

今、合併六年を経て奥出雲町は、ハード面ソフト面がバランス良く動き始めております。

用券を発行し、子供たちが町内を自由に行き来できるようになります。

また、島根大学と連携し、教員を目指す講座である実習セメスターの町内小中学校への受け入れや、吾妻山のびびびキャンプにおけるカウンスラーとしての大学生受け入れを積極的に進め、地域資源を活用した特色ある教育の充実を図ります。

スポーツの振興 ホッケー競技をはじめ町体育協会の陸上・剣道など競技部などの競技力の向上、軽スポーツの普及など必要な支援を続けます。

文化芸術の振興 各種文化教室の開催、芸術文化団体の育成支援や演劇などの芸術鑑賞機会の提供を図ります。

新たな芸術文化の創造に努め、奥出雲町芸術文化祭の開催を支援し、「文化の薫り高いまちづくり」を推進します。

文化財の保護、保存、伝承

今後は豊富な森林資源と未利用資源を活用し、地産地消の経済活動として持続的・安定的な循環型の産業を構築し、雇用の創出を図るよう努力します。

等は、巨樹巨木や神話伝説など地域資源を再調査し普及啓発するとともに、積極的な情報発信を行います。

特に、本町の今日の文化的な景観形成はたたら製鉄の「かなな流し」とともに育まれたものです。この文化的景観について学術調査を実施し、国の重要文化的景観の認定を目指し、町づくりに活用します。

新エネルギー施策と環境対策 今年度は、奥出雲町新エネルギービジョンにおける木質ボイラー導入調査とバイオマスタウン構想の策定に取り組みましたが、来年度は計画に基づき、佐白交流施設へヘッツボイラーの導入を予定しています。

また、太陽光発電施設や木質暖房器具などの設備整備を推進するための助成制度や、企業等が行うバイオマス技術開発に対して支援措置を創設します。

今後は豊富な森林資源と未利用資源を活用し、地産地消の経済活動として持続的・安定的な循環型の産業を構築し、雇用の創出を図るよう努力します。

奥出雲町副町長として行政各般にわたりご尽力頂きました。和泉一朗氏が退任されました。和泉氏は、平成十七年六月に奥出雲町初代収入役に、平成十九年四月には、副町長に就任。民間企業で培った知識と人脈をもって、町の行政運営にあたられました。

「心豊かで潤いと活力のある奥出雲」笑顔と語り元気があふれるまちづくりのコンセプトのもと、奥出雲町総合計画審議会の皆さんのご努力により、この度、奥出雲町総合計画が策定されました。

ご承知のとおり、国の内外を問わず昨今の政治経済情勢は、未曾有の大地震の復興も含め、極めて厳しく予断を許さない状況ではあります。奥出雲町でも財政の健全化方針は堅持しつつも、時に、時代の要請に対応した柔軟な施策も必要になってくると思っております。

幸い奥出雲町には、古から受け継がれた豊かな自然、伝統や文化、食の数々、そして都会地では考えられない、人と人との絆、コミュニケーションがあり

ます。人口集中の都会地では考えられない恵まれた環境です。高度経済成長期には、周回遅れと揶揄されていたわが島根県ですが、今や高齢化時代の範たるトップランナーとなろうとしています。

広く門戸を開放し、これら有形無形の貴重な資産である強みをじっくりと醸成、活用してゆけば、きっと素晴らしい町として、その存在感を発揮し続けることと確信しております。最後になりましたが、約五十年の勤めに暮らすに当たり、振り返ってみますと、「人生万事塞翁が馬」今まさに実感しているところ。最後に奥出雲町の皆様方の益々の発展を祈念し、退任のご挨拶とさせていただきます。